

CNJ Speakers

Know (≠No) More Cancer 私たちは、もっと伝えたい



No.
14

Special Talk もっと知ってほしい大腸がんのこと/
News/Report/Event Schedule/
海外がん医療 TOPICS / 遺贈について
スタッフ&ボランティア紹介



医師たちが「ブルーリボンキャンペーン」に懸ける思い

「ブルー」それは、大腸がんの啓発カラー。そのブルーに彩られた大腸がんのキャンペーンが「ブルーリボンキャンペーン」！現在、大腸がんにかかる人は増加の傾向にあり、現在では胃がんを抜いて1位になったと言われています。しかし、早期発見が有効で、さまざまな治療方法も登場し、長く付き合うことも可能ながんであることを知っている人は少ないのではないのでしょうか。今回は、大腸がん啓発ブルーリボンキャンペーンの意義、そしてそこで活動を続ける人々の思いを、6名のメンバーと、大腸がん啓発活動に奔走されている中井美穂さんに伺いました。

ブルーリボンキャンペーンとは

日本人に身近、しかし比較的治りやすい「大腸がん」

大腸がんは、高齢化や食文化の欧米化などにより、日本で急増しているがんです。国立がん研究センターによる2015年のがん罹患数予測では、大腸がんが第1位になると言われています。しかし、大腸がんは比較的治りやすいがんであるのも事実。早期に見つかれば内視鏡での切除で完治を望め、たとえ他の臓器にがんが転移していても手術で治る可能性が十分あります。さらには新しい治療薬も登場してきました。ここ10年で、大腸がんの治療成績は飛躍的な向上をみせています。

しかし、「がん」と告知された時のショックは大きく、薬(わら)にもすがらない思いになってしまう患者や家族も多いもの。がんの治療をしながらも自分らしく生きるためには、正しい情報、そして納得のいく治療法を患者自身も学んでいくことが大切です。

「正しい情報を伝えたい」という思いから始まった、ブルーリボンキャンペーン

「十数年前は患者さんが知ることができた情報がなさすぎて困ったけれど、今はありすぎて困ります」と語るのは、ブルーリボンキャンペーン(以下、BRC)のボードメンバー(活動の中心メンバー)の1人である室圭先生。ボードメンバーの医師たちは、「患者・家族は、自分が知りたい情報に関心が行きがちで、知らなければいけない科学的根拠に基づいた情報にた

“患者さん・ご家族は、情報に振り回されないことが大切”

室圭 むろ けい

愛知県がんセンター中央病院 薬物療法部部長 / 外来化学療法センター長



大腸がんに向き合う医師たちの想い

どりに着けないことが多い」ことに懸念を示します。その状況を打開するべく、正しい情報提供の場としてスタートしたのがBRCでした。

まず重要なポイントに、医療環境の地域差を生じさせないことがあります。BRCも地域に根付いたものであることが大切と考え、各地で大腸がんに携わる内科医師・外科医師が「アンバサダー（大使）」となり、活動を広げています。現在では、

全47都道府県に、総勢96名のアンバサダーが就任し、活躍しています。2011年より始まった一般市民向けセミナー「ブルーリボンキャラバン」も、知ってほしい、大腸がんのこころ」は、すでに日本各地でこれまでに30回も開催されるまでに至っています。

キャラバンは、
職種の垣根なくみんなで活動を広げられる場

石黒めぐみ いしぐろ めぐみ

東京医科歯科大学大学院 応用腫瘍学講座准教授

患者と医療者が同じ目線で語り合う

「患者・家族に正しい情報を」との想いから開催されているブルーリボンキャラバン。活動を導くボードメンバーの医師たちは、その趣旨の他にも多くの意義を感じているようです。

ボードメンバー・石黒めぐみ先生によると、「この活動は、患者さんだけでなく、医療者のためにもなります」とのこと。同じく板橋道朗先生は、「医療関係者は、病院の中だけにいてしまうと、患者さんと対等に話せる機会がありません。キャラバンは、患者さんと同じ目線で語り合える場」と言います。活動に参加することで、普段の「医師と患者」という関係はなかなか知りえない、患者の生の声を聞くことができるのだそう。患者は、「自分にとって大切なことでも、主治医には話づらい」と思ってしまうという話をよく耳にします。実は医師も「余計なことを言って、患者さんの気分を害してしまうのでは」と思うことがあるとのこと。そのような医師と患者の壁は、診察室では気付かぬ間にできてしまっているものなのではないでしょうか。それがなく語り合える場は、どちらにとっても貴重と言えるかもしれません。

医療者同士のつながりの場にも

「大腸がんの治療は、チームの力なくしては成り立ちません」と、佐藤太郎先生は語ります。現代のがん治療は、医師のみでなく、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどがチームとして協力し、患者を支えています。しかし、たとえ同じ病院の中で仕事をしてい

るとしても、直接の関わりがない部署の人々とは話をする機会があまりない場合も多いものです。

板橋先生は、「さまざまな医療者が協力してキャラバンを作り上げることで横のつながりが生まれ、チーム力があがりまします」と言います。「自分のチームを大切にすることや、スタッフ同士の新しい出会いもあるなど、お互いを知ること、普段の仕事にも役立てていける」とのこと。

また、違う分野の医療者が共に活動をする中でお互いの相違点を知り、「どうしたら伝わるか」を考えていけるのもキャラバンの利点なのだそう。それにより、医療者同士の意志疎通だけでなく、より分かりやすい情報を患者さんへ伝えていくことにもつながるのだとか。室先生は、「BRCのように、日本全国にいろんな活動があることを知ってもらって、幅広いネットワークを作ってもらいたい」と語りまします。これからの医療に必要とされていく、患者と医療者、職種、さらには地域の垣根を越えた広い連携を作る場としての意義を、ボードメンバーの医師たちは感じているようです。

患者や家族が参加することの意味

現代の医療では、患者は情報を受け取るばかりではなく、自らも主体的に考え、医療者と協力して治療していくことが大切です。そのために「信頼できる情報にアクセスし、賢い患者さんになつてもらいたい」と杉原健一先生は言います。

自身の一時的ストーマ（人工肛門）の経験から、患者に近い立場でBRCに携わっているフリーアナウンサーの中井美穂さんは、「キャラバンでは、実際の手術の映像を見たり、治療に使われている機器に触れてみたり

「よりよい治療や情報提供ができるよう、
一緒にがんばりましょう！」

佐藤 太郎 さとう たらう

大阪大学大学院医学系研究科 先進薬物療法開発学寄附講座 寄附講座教授

「患者さんと同じ目線で話ができる、
数少ない機会」

板橋 道朗 いたばし みちお

東京女子医科大学消化器病センター 消化器外科准教授



することができません。患者さんは、現代の大腸がんの治療を身近に感じ、また、客観的にも見ることでできるのでは」と語ります。その他、ストーマがどういったものであるかなど、未だあまり知られていないことを知る機会にもなるとのこと。

ボードメンバーの医師たちは「患者さんやご家族は、ひとりではありません。いろんな団体が有益な情報発信をしていることを知っておいていただきたい」と声をそろえます。BRCは、医療者、そして患者のためにも大きな役割を担うものになっているようです。

アンバサダーサミットとは

大腸がん啓発のために活動している全国のアンバサダーが一堂に会し、各地での活動報告と情報共有を行うのが「アンバサダーサミット」です。国内の医療者間での連携を強め、これからの啓発に役立てることを目的としています。

患者さん・メディカルスタッフとも、信頼できる情報にアクセス！

杉原 健一

すぎはら けんいち

大腸癌研究会会長 東京医科歯科大学特任教授 光仁会第一病院院長

2016年10月21日 第3回ブルーリボンキャンペーン・ アンバサダーサミットを開催

大腸がんの知識を
多くの地域で広めるために

今回のサミットは、日本癌治療学会学術集会の会期中に、開催地である横浜で、30名の参加者のもと行われました。司会は中井美穂さん。中井さんの醸し出す和やかな雰囲気の中、サミットは進行しました。

アンバサダーの各地での取り組みとして、中村将人先生(長野県)、佐村博範先生(沖縄県)、猪股雅史先生(大分県)よりキャラバン開催報告がありました。中村先生からは、「地元紙とラジオでキャラバンの告知を行った」とのこと。長野県は車社会のため、運転中にラジオを聴くことが多いことから、地元根付いた告知方法をとったそうです。それにより、286名が参加するという快挙に至りました。また、佐村先生からは、「プログラム内に、生命保険の活用についての講演を取り入れた。保険に入ることで、自分が医療をうけやすい環境を作り出すことも大事。また、沖縄県は大腸がんの検診率・死亡者数などがワーストなので、今後も啓発に力を入れたい」とのお話がありました。また、猪股先生は、情熱大陸のテーマをバックに開催報告動画を作成。「満席の会場で、休憩時間に来場者が内視鏡の機械やモデルなどを見ていたことが印象的だった」とのことでした。



キャラバンは、患者さんが「大腸がん治療の今」を知る貴重な機会

中井 美穂

なかい みほ

フリーアナウンサー 腹膜炎による一時ストーマの経験者 以降、BRC活動に積極的に携わる

を作り上げる楽しさ、イベントがお互いに学ぶ機会になること、そして、BRCのウェブサイトからダウンロードできる「啓発活動に役立つスライドセット」などの紹介がありました。そのほか飛び入りで、青森県の佐藤温先生、宮城県の大沼忍先生より、それぞれの地域でのキャラバンの開催報告をいただき、活気あるサミットとなりました。

最後に、BRCトータルアドバイザーの杉原健一先生の「アンバサダーが地域で活動していくことが『大腸がんの知識を多くの地域で広める』という目的に合っている。是非、47都道府県でブルーリボンキャラバンを開催したい」との言葉で、サミットは閉会となりました。

今回のサミットで共有された情報は、今後の大腸がん領域の発展、そして患者の理解促進へとつながっていくのではないのでしょうか。これからのアンバサダーの方々の活躍に期待したいと思います。

文/木口マリ
写真/山本華漸

大腸がんサバイバーとしての教訓
大腸がん検診を受けましょう!

金 哲彦

きん てつひこ

プロランニングコーチ (大腸がん体験者・BRC ボードメンバー)



ブルーリボンキャラバンでは さまざまなブースを出展!



大腸がんの検査・治療に使用する機器や、
患者会、支援団体のブースが並びます!

参加者の声

「腹腔鏡や内視鏡の操作体験が出来たり、出展ブースを巡り、話を聞いたり出来て有意義でした。」



大腸がんの検査や治療で使用される内視鏡や腹腔鏡下手術、化学療法で使用されるCVポートなどの医療機器の展示や操作体験などのブースや、各病院のがん相談支援センターや、患者会、支援団体などの皆さんに出展いただいています。大腸がんへの理解が深まり、仲間と出会う機会となっております。2017年も各地でブルーリボンキャラバンを開催予定です。是非、ブース出展をしてみませんか?



手術、内視鏡、化学療法の最近の治療を取り入れて改訂! Q&Aも充実!!

患者さんのための 大腸癌治療ガイドライン

2014年版 大腸癌研究会 編

大腸癌について知りたい人のために
大腸癌の治療を受ける人のために

B5判 76頁 定価(本体1,000円+税)
ISBN978-4-307-20328-9

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp/> 金原出版

メルクセローノ株式会社は、 ブルーリボンキャンペーンを 支援しています!

ブルーリボンキャンペーン(BRC)の支援を通じて

メルクセローノ株式会社は、大腸がんの患者さんおよびご家族の方々への情報提供を目的に、ブルーリボンキャンペーン(BRC)を支援しています。この活動が「医療従事者から患者さんやご家族へ、大腸がんの正しい情報を伝える場となり、患者さんとご家族が正しい情報を知るきっかけのひとつ」となるよう、いわば、患者さん、ご家族、医療従事者の方々との間の「橋渡し」になればと願っています。

同時に、私たちにとっては、患者さん、ご家族の方々とのふれあいができる貴重な機会となっています。



2016年9月18日ブルーリボンキャラバンin大分会場にて撮影



今年で7年目

2011年の第1回市民公開講座から始まったBRCの活動は、すでに30回の市民公開講座を数えています。参加者の方々からのアンケート集計では、良い評価をいただいております。さらに2014年からは「アンバサダーサミット」を開催し、昨年で3回目の開催を迎えました。

7年目を向かえ、2017年も活動を継続していきますので、お近くで開催の際には市民公開講座に是非ご参加ください。

メルクセローノとは?

メルクセローノは、世界で最も歴史の長い医薬品・化学品企業であるドイツのメルクグループ(Merck KaGA)のバイオフィーマ部門です。本社をドイツのダルムシュタットに置くグローバルカンパニーであり、その起源は1668年までに遡り2018年で創業350年の歴史を持つ会社です。

メルクセローノでは、がん領域を最も注力すべき領域のひとつとして位置づけています。現在臨床現場にお届けしている抗EGFR抗体の他にも、抗PD-L1抗体をはじめとする多くの抗悪性腫瘍剤を開発中です。

私たちは、がん領域の製品を通じ、患者さんQOL向上と、生存延長に貢献していきたいと考えています。

メルクセローノ株式会社

ホームページ

<http://www.merckserono.co.jp>



非小細胞肺癌患者の94%が新たな治療の可能性を求め遺伝子検査の受診を希望 ～進行・再発非小細胞肺癌患者への組織採取や遺伝子検査に関する意識調査～

CNJは、アストラゼネカ株式会社、がん情報サイト「オンコロ」とともに、11月の肺がん啓発月間にあわせ、肺がん患者さんの薬剤の選択における課題を検討するため、「進行・再発非小細胞肺癌患者への組織採取や遺伝子検査に関する意識調査」を実施し、2016年12月14日、その結果を公開致しました。

本調査は、肺がんの中でも個々の遺伝子の状態によって治療薬の選択が可能となりつつある非小細胞肺癌の患者さんが、適切な治療を決定する際に必須となる遺伝子検査をどのようにとらえ、何が受診の障害となっているかを明らかにすることを目的に行いました。本結果を受け、本格的なプレシジョン・メディシン（高精度医療）時代到来に向け、CNJでもさまざまな取り組みをしていきたいと考えています。

【調査結果のポイント】

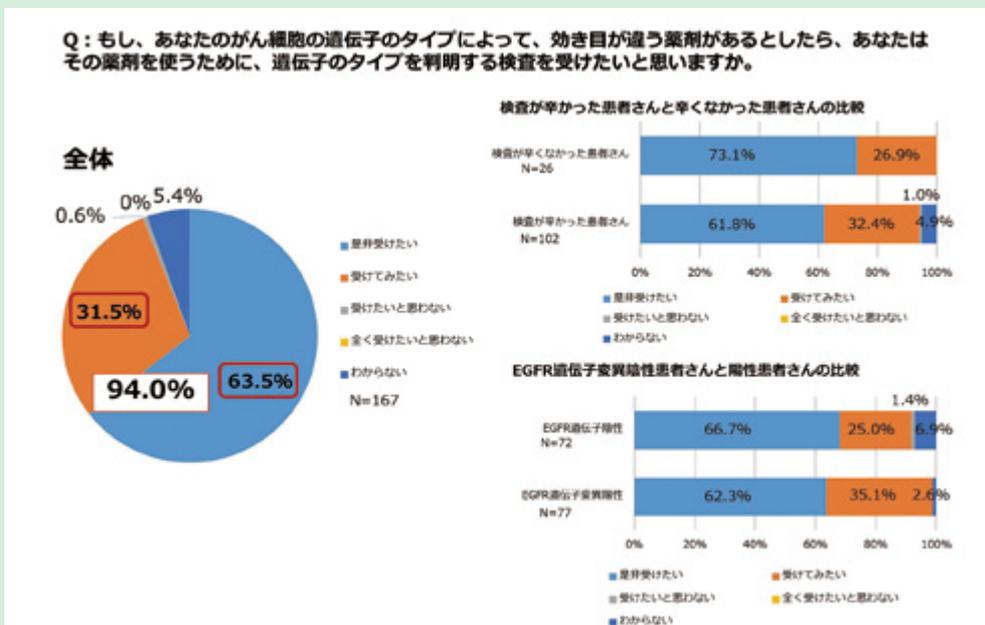
・確定診断時に気管支鏡検査または経皮的肺生検を受けた進行・再発非小細胞肺癌患者さん 132名のうち、102名(77.3%)が気管支鏡検査または経皮的肺生検が辛かったと回答しました。

・進行・再発非小細胞肺癌患者さん 167名のうち、遺伝子変異の種類によって効果の異なる薬剤がある場合、157名(94.0%)が遺伝子変異を調べる検査を受けたいと回答しました。

・遺伝子変異を調べる検査方法としては、「受けたい」と回答した157名のうち123名(78.3%)が「血液検査」を選択すると回答しました。肺がん確定診断時の検査に、辛い思いをされた患者さんは「血液検査」を選択し、辛い思いをされていない患者さんは「どちらでも問題ない」を選択する傾向がありました。

・遺伝子変異を調べる検査方法として、「血液検査」/「どちらでも問題ない」と回答した148名の患者さんのうち、血液検査で遺伝子変異が特定できなかったが、気管支鏡検査(または経皮的肺生検)で遺伝子変異が特定できる可能性がある場合に、血液検査後に「気管支鏡検査(または経皮的肺生検)を受けたい」と回答したのは130名(87.8%)でした。

・確定診断の検査時に辛い思いをされた92名の方においても、82名(89.2%)が再度その辛い思いをした検査を受けると回答しました。



【本調査監修者 北里大学医学部附属新世紀医療開発センター教授 佐々木治一郎先生のコメント】

EGFR 遺伝子の変異状況に基づく治療薬の選定は、昨今注目を浴びている Precision Medicine (プレシジョン・メディシン) の先駆けといえます。本調査結果は、例え苦痛を伴う検査であっても、その結果が最適な治療に結びつかならば、患者さんはその検査を選択することを明確に示しており、エビデンス(科学的根拠)と患者さんの価値観が一致した好例といえます。医師は、独自の判断だけで患者さんの次の治療選択の機会を狭めてはいけなないと考えます。



がんの治療選択に必要な
バイオマーカー情報をお手元に！

「もっと知ってほしい」

がんのバイオマーカーのこと

冊子完成のお知らせ

この度、近畿大学医学部外科学教室呼吸器外科部門主任教授の光富徹哉先生へ監修のご協力をいただき「もっと知ってほしいがんのバイオマーカーのこと」冊子が完成しました。

バイオマーカーとは、血液や尿、組織などから調べたデータで、病気の変化や治療に対する反応をみる指標で、最近のがんが転移しているかどうかなどを知る目安としても使われるようになってきました。がんの治療は、手術などの外科的治療や放射線での治療、抗がん剤等での薬物療法、最近では免疫療法も話題になっていますが、たとえ同じがん種の患者さんでも、バイオマーカーにより治療方針が違うことも分かってきたため、今やバイオマーカーの検査は欠かせないものになってきています。治療選択のために使われるバイオマーカーは主に生検や手術で採ったがん細胞を分析して調べます。がんの治療選択に関わるバイオマーカーは、がん患者さんが自分のがんのタイプに合った最適な治療を受け、不要な副作用を避けることにつながる大切な情報です。がんの治療選択に関わるバイオマーカーの研究は日進月歩で、現在は手術や生検で採取したがん細胞を調べる検査が主流ですが、血液検査など体への負担がより少ない方法でバイオマーカーを測定する研究も進みつつあることを、患者さんへ少しでも分かりやすく情報を届けたく冊子を作成しましたので、是非ご利用いただけましたら幸いです。



下記から冊子をダウンロードできます！
<http://www.cancernet.jp/bio-book>

小児がんの情報を発信していきます

「もっと知ってほしい小児がんのこと」

特設サイト開設

日本では、毎年約2千人の子供が「がん」と診断されており、子供の人口の約1万人に1人が小児がんにかかり、現在、その約7割が完治するといわれています。

特設サイトは、科学的根拠に基づく小児がんの治療方法や、小児がん患者さん、そのご家族、周囲の方への情報提供を目的としています。サイト開設費用には、レモネードスタンドで皆さんから集まった募金を活用させていただきました。



希少がんセミナーを毎月開催します
希少がんを知り、学び、集う

「希少がん Meet the Expert」

「まれながん」のことを「希少がん」といい、人口10万に6例未満のがんのこととされています。しかし、その種類は200にも及ぶと言われています。そのような背景から、情報も少なく、また病気や治療について学ぶ機会も少ないのが現状です。希少がん Meet the Expert は、国立がん研究センター希少がんセンター、認定NPO法人キャンサーネットワークジャパン、がん情報サイト「オンコロ」が協力し、毎月第2金曜日に開催するセミナーです。ご興味がある方はぜひご参加ください。



参加費 無料
希少がん Mte
希少がん Meet the Expert
日時：毎月第2金曜日 19:00-20:30
場所：国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 1F 希少がんセンター待合

がん患者さん、ご家族のための

生活回りの情報をお届けします

「もっと知ってほしいがんと生活のこと」

WEBサイト開設

近年、治療の進歩により、がん患者をとりまく環境も変化してきました。生存率も上がり、通院治療が中心になり、治療を続けながら、これまでに近い生活を続けている患者も少なくありません。このサイトでは、がん患者が、がんと共に生きていく上で役立つ生活回りの情報を、発信していきます。なお、「心のケア」や「医療制度」は日本イーライリリー株式会社の患者・家族向けサイト、「リリーがん情報タウン」のコンテンツを譲り受けました。今後は、がん患者の外見の変化に対するケアや、食事や栄養についての情報、先輩患者の情報なども追加していきます。どうぞお楽しみに。



自分や家族、大切な人の「がん」と向き合う
おススメ記事
もっと知ってほしいがんと生活のこと
<http://www.cancernet.jp/seikatsu>

日本を代表する**がんの専門家**が**日本橋**に大集結!!



- Upgrade Your Knowledge on Cancer!! -
Japan Cancer Forum

2017.8.19 (土) ~ 8.20 (日) コンgressクエア日本橋

Japan Cancer Forum 2017 @日本橋

がんの専門家が一堂に会す「がん患者・家族・市民のための最新がんフォーラム」

2014年に1年に1回の取り組みとして始めた、キャンサーフォーラムも今年で4年目を迎えることとなりました。これもひとえに無償でご協力頂いている講師の先生方をはじめ、ご参加くださる皆さま、そして一緒にイベントを作り上げるボランティアスタッフ、ブラス出演、共催・協賛団体の皆さまのお陰と感謝しております。

2014年は全体収支からみるとフォーラム自体は赤字、2年目の2015年も年賀寄附金の助成を頂きましたが、約200万円の赤字、3年目はマイクローンフォードの Upgrade Your World キャンペーンのご支援、新産業文化創出研究所株式会社、株式会社コングレのご協力を頂いたものの、やはり2日間で約300万円の赤字を出しました。人件費を入れるともっと大きな赤字となると思います。今後も専門家・がん体験者が一堂に会すキャンサーフォーラムを継続するため、皆さまのご支援をお願いします。



JCF2017を一緒に作りませんか?

当日の運営ボランティアさんも募集いたします。ご関心のある方は、
info@cancernet.jp
までご連絡ください。

過去の講義動画はコチラからご覧いただけます

JCF 特設サイト
<http://www.cancernet.jp/jcf/>



JCF 開催費用をご支援ください!

<http://www.cancernet.jp/donation>

自由記述欄に「JCF 開催費用として」とご記載ください。JCF を開催するための費用として充てさせていただきます。



2017年3月25日開催
Over Cancer Together(OCT)
「がんを共にのりこえよう」
第4回がんサバイバー・
スピリーキング・セミナー

参加者募集

今年も Over Cancer Together「がんを共にのりこえよう」がんサバイバー・スピリーキング・セミナーを東京にて開催いたします。医師、メディア、患者アドボケイト、過去のセミナーの卒業生といったさまざまな立場の方を講師に迎え、がんサバイバー(体験者)が体験談を語ることにどんな期待が寄せられているかお話を伺いし、実際にがん体験談の組み立て方、話し方を学びます。過去3回のセミナーの卒業生はさまざまな場所でそれぞれの方法で活動されています。

詳細・ご応募はOCTのウェブサイト(www.octjapan.jp)をご覧ください。地方からの参加者には旅費の補助もあります。(応募切...1月20日)



「医学統計家から見る余命に関わるウソとホント」と、「進化する大腸がん治療の実際」についてお届けしました!

ONCOLO Meets Cancer Experts 開催



10月の第10回目は、東北大学大学院 教授の山口 拓洋先生にお越しいただき、「医学統計家から見る余命に関わるウソとホント」について詳しく講演をいただきました。

11月、第11回目は、がん研有明病院 消化器化学療法科部長の山口研成先生から、「進化する大腸がん治療の実際」と題して、大腸がんの最新治療情報や今後の動向について講演いただきました。どちらも、普段は聞けない専門的な内容で、皆さん真剣に講義を聞かれていました。2017年も毎月開催します。皆さまのご参加をお待ちしています!

2016年も各地で盛会にて終了!
来年も全国で開催します!

ブルーリボンキャラバン
もつと知ってほしい大腸がんのこと

2016年10月15日、NPO法人東北外科臨床研究推進機構NEXTSURGと共催にて、3年ぶりに仙台にてブルーリボンキャラバンを開催しました。当日は、宮城県ブルーリボンキャンぺーンアンバサダーの大沼忍先生、蒲生真紀夫先生を始め、地元の方から大腸がんの治療について詳しい講演をいただきました。当日は、大腸がんの検査や治療で用いられる機器や、がん相談支援センター、患者支援団体のブース出展もいただき、250名の方が参加くださいました。また、通算30回目となるブルーリボンキャラバンを11月9日、浜松市の松田病院30周年記念イベントとして、松田病院と共催させていただきました。司会は、中井美穂さん、また、ブルーリボンキャンぺーンアンバサダーボードメンバリーの石黒めぐみ先生にもお越しいただき、340名の来場者があり大盛況にて終了いたしました。胃腸、肛門疾患の病院との共催は、痔や、お尻周りの情報もあり、いつものBRCでは聴けない情報もありました。BRCの開催は計30回となりました。来年も全国を回ります!是非、お近くで開催の際は、ご参加ください。



すっかり恒例・大好評!

レモネードスタンド BARR@CNJ

2016年は、レモネードスタンドデーのある6月と、小児がん啓発月間の9月に開催しました。たくさんの方が参加してくださり、2度の開催で139680円のご寄付が集まりました。ありがとうございます。

日本ではあまりなじみのない「レモネードスタンド」ですが、高校1年生の英語の教材「Genius」に取り入れられているのはご存知ですか? CNJオフィスにもある1冊、ぜひご覧ください!

もつと知ってほしい骨転移のこと
ナース専科タイアップ看護師向けセミナー

2016年12月11日、看護師向け月刊誌「ナース専科」を出版する、都内の株式会社エス・エム・エスのセミナールームにて、「知って変えよう!患者さんのQOLを高める骨転移のマネジメント」とのテーマでタイアップセミナーを開催しました。

整形外科の立場から東京大学医学部附属病院の篠田祐介先生、放射線診断医・治療医の立場から東京医科大学の吉村真奈先生、看護師の立場から昭和大学病院の牧克仁先生、骨転移と向き合う前立腺がん体験者の立場から川崎陽一さんが講演、来場者の質問に回答するQ&Aセッションを行いました。会場は、参加した70名の看護師の皆さんの熱気に包まれ、多くの学びを得られた時間となりました。





「知る」「学ぶ」「集う」わかる!がん情報〜
ちやまち
キヤンサー
フォーラム
2016
MBS × CancerNet Japan

〜「知る」「学ぶ」「集う」わかる!がん情報〜
ちやまちキヤンサーフォーラム 2016

昨年より近畿のKey局であるMBS毎日放送と開催しているOne Dayセミナー。2016年も秋晴れに恵まれた11月12日、毎日放送本社1階にて約800名もの皆様にご来場いただき盛会に催されました。がん種別のセミナーや患者会を中心としたブース展示、株式会社ポラ協力のものとハンドトリートメントの施設やメイク講習会など学びだけではなく、癒しも体験出来る幅広いコンテンツのイベントとなりました。セミナー会場は「乳がん」「消化器がん」「肺がん」「前立腺がん」「婦人科がん」の5つのがんについてテレビやラジオでお馴染みのアナウンサー進行のもとと各専門医より日々進歩する治療法をとても分かりやすく講演いただきました。

また、サバイバーの方にもご登壇いただきがん告知を受けた時の心境から現在に至るまでそれぞれの思いや体験した事などを患者の立場から笑いや時には涙を浮かべながらお話しいただきました。

イベント会場のちやまちプラザでは企業・患者会より19団体に出展いただき情報を得る場だけではなく同じ境遇の仲間との交流の場にもなっていました。ミニステージでは医師やサバイバーによるフリーセッションやワークショップ、情報ライブラリースペースでは、ファイナンシャルプランナーによるお金と暮らし相談、想いを伝える絵手紙教室など参加型のコンテンツも好評を得ていました。また、ハンドトリートメントは男性の参加もあり「心より癒された」と大好評でした。特別協力いただいた日本イーライリリー株式会社のリリー・オンコロジー・オン・キャンバスのブースではサバイバーの想いが詰まった素敵な写真や絵が展示されており多くの方が足を止めてご覧になっていました。参加者からは、「大変勉強になり良い機会を与えて下さり有難う」「サバイバーの体験談を聞いてがんと病の中だけに生きるのではなく自分のしたい事を実現出来る様に前向きに生きていく姿勢から多くを学び取った」などの声も聞かれ、患者、家族、友人、医療者、一般の方々が「知る」「学ぶ」「集う」「わかる」場として活用していただきました。

最後になりましたが、開催趣旨にご賛同いただきました医療者、講師陣の皆様、朝早くから準備に取り掛かって下さったボランティアスタッフの皆様、会場にお越しいただいた多くの皆さま方をはじめ、本イベントにご支援くださいました全ての皆様に御礼申し上げます。また、来年も開催出来る様スタッフ一同、新たな目標に向かって進んで参ります。



フォーラム当日の各講演の動画は下記サイトからご覧いただけます!

<http://www.cancernet.jp/mbscnj/>





肺がん疾患治療啓発キャンペーン もつと知ってほしい肺がんのこと 2016 in 仙台 もし、進行・再発肺がんと診断されたら

2016年10月16日、せんだいメディアアテークで日本イーライリリー株式会社との共催で、肺がんセミナーを開催しました。9月の名古屋に続き、肺がん薬物療法に内容を絞り、「進行・再発肺がん治療の概要と化学療法」を東北大学の井上彰先生に、「肺がんの分子標的薬治療について」を宮城県立がんセンターの前門戸任先生に、「免疫治療について」を仙台厚生病院の菅原俊一先生にご講演いただきました。また、日本肺がん患者連絡会代表の長谷川一男さんに自身の体験談と、日本肺がん患者連絡会について紹介いただきました。講演会後は、EGFR遺伝子変異のあるグループ、遺伝子変異のないグループなどに分かれ、患者、家族のおしゃべり会も開催しました。参加者からは、「最新の情報を聞き希望がなかった」「これまででは現実をつぎつけられそうで恐かったが患者会の活動も今後参加してみたいと思えた」などの感想をいただきました。

第57回日本肺癌学会学術集会 公開シンポジウム がん患者・医療者・市民・ 社会で考える肺がん医療

2016年11月6日、アクロス福岡で、第57回日本肺癌学会学術集会公開シンポジウムが開催されました。第1部は「がんと共に生きる」というテーマで、がん患者の就労と経済的支援、在宅医療、服薬管理、地域連携、訪問看護についての講演がありました。第2部は「変わりゆく肺がん医療」というテーマで肺がんの最新情報を熊本大学呼吸器外科の鈴木実先生にご講演いただきました。また、岩手医科大学産婦人科学教授で肺がんサイバーの杉山徹先生のご講演には、参加された患者さんからも、もつと話を伺いたかったという感想をいただきました。最後に九州発アイドルグループLinQとジバニャンのライブもあり、会場が大いに盛り上がりました。



日本肺癌学会主催市民公開講座 もつと知ってほしい肺がんのこと

2016 in 東京開催

2016年11月27日、日本肺癌学会主催の市民公開講座が東京・コングレススクエア日本橋にて開催されました。続々と新薬が登場している肺がんの最新の情報を得ようと、多くのがん患者、家族、医療従事者が参加され、計、183名の方にご参加いただき、盛況にて終了いたしました。後半のQ&Aにも会場から多くの質問が寄せられ、肺がん治療に対する関心の高さが伺えました。

2016年は、7月京都、9月札幌、11月東京と3回、市民公開講座を開催いたしました。ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。来場者の皆様からは、「10年前の知識から、薬物療法は考え方が全く変わっていることがよくわかり、大変役に立った。遺伝子変異のタイプを知ることが必須であることに思いつけられた」「がんの治療法が色々あることがわかり、もしがんになった時には先生とよく相談しながら治療した方が良いと思いました」「肺がんの治療や知識についてより知る事が出来、勉強になりました。知る事で不安が少なくなりました」などの感想をいただきました。





世界肺癌学会と Global Lung Cancer Coalition 年次ミーティング in ウィーン

さて、前回 ASCO の続きを書くといいましたが、ウィーンの「世界がん連盟 (Global Lung Cancer Coalition / GLCC)」の年次ミーティングと世界肺癌学会から帰ってきたばかりですので、せっかくなのでこの興奮冷めやらぬうちに、こちらのレポートをお伝えしたいと思います。



1 GLCC 年次ミーティング

GLCC は英国のロイ・キャッスル肺癌財団の中に事務局がある「緩やかな」(つまり法人資格を持たない)連盟です。お互いが課題を共有し、互いの活動にヒントを得てアドボカシー活動に生かし、世界規模で肺がん患者の治療を含めた環境の向上を目指しています。今回は、世界17か国から26のグループ代表者が参加しました。

〔日本における活動紹介〕

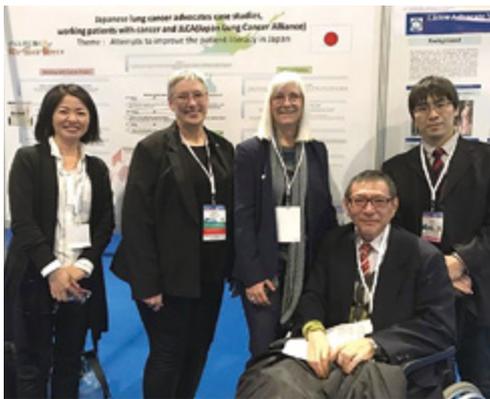
2日目に、CNJは新メンバーとして活動紹介の時間をいただいたので、前半でCNJの紹介、そして後半で2015年に立ち上がった日本肺がん患者連絡会(JLCA)の活躍ぶりをご紹介しました。ちょうどその2日前にJLCAがリリースしたピコ太郎さんのペンバイナッポアッポペン(PPAP)のパロディ版受動喫煙防止キャンペーン動画を見せたところ、皆PPAPを知っていた、会場は大いに盛り上がりました。

〔製薬企業とのミーティング〕

私が驚いたのは、GLCC年次ミーティングのプログラムの半分を占めるのはGLCCを支援している(寄付者である)パートナー製薬企業とのミーティングだということです。各企業1時間与えられ、好きなように使えます。5〜6人来るところもあれば1人だけのところもありました。部署はペイシェントリレーションズ(患者会対応部門)、広報・マーケティング、マーケティングアクセス部門、開発部門等様々、内容も薬の開発状況の説明から、新しいウェブサイトやプロモーションマテリアルについての意見交換など各社それぞれです。ひたすら1時間質問に答えます!という企業もありました。この時間は企業にとって寄付の特典でもあるわけです。企業とアドボケイト、お互いがギブアンドテイクですごく良い関係が築けているのです。

2 世界肺癌学会

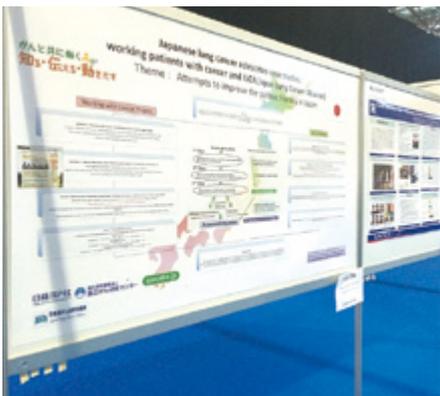
世界肺癌学会では、JLCAの長谷川一男さんと山岡鉄也さんがJLCAの取り組みについてポスター発表をされ、私も微力ながらお手伝いさせていただきました。世界肺癌学会で日本の患者会が発表するのは初めてだそうです。アドボカシーのポスターエリアは会場が一番奥にありましたが、アメリカ、オーストラリア、英国、タイ、中国、ノルウェーなどの国のオンコジスト、看護師、ソーシャルワーカー、患者、患者家族等多くの方が足を止めてくださいました。



医療従事者、企業関係者と会えたことが何よりの収穫でした。あのマギーズセンターを立ち上げようと思ったきっかけは患者会国際交流(IEEPO)で出会った複数の方から、「『マギーズセンター』を見に行けば?」と言われたことでしたね。ぜひ皆さんも参加してみてください。ASCOや世界肺癌学会は参加のための旅費を補助するトラベルグラントを募集します。学会参加費用も患者アドボケイトは大幅に安い、無料です。海外へ行くのがハードルが高ければ、来年の世界肺癌学会は横浜での開催です。

3 まとめ

ASCOに続き世界肺癌学会にも参加して、大変勉強になったことはもちろん、世界中のアドボケイトや





第57回 日本肺癌学会学術集会

パシエント・アドボケイト・プログラム

Patient Advocate Program

あなたにとって最適の肺がん治療とは

パシエント・アドボケイト・プログラム (PAP)

CNJは2015年より日本肺癌学会学術集会で患者・家族向けプログラム(パシエント・アドボケイト・プログラム/PAP)を企画・運営でサポートさせていただいています。2016年の第57回日本肺癌学会学術集会(大会長・九州大学胸部疾患研究施設 中西洋一教授)は「Innovation for the Next Stage」肺癌にかかわるすべての人のために」をテーマに12月19日より3日間、福岡県博多市で開催されました。

PAPでは肺がん治療についてのみならず、がん患者の生活に役に立つ、利用できる制度や栄養、リハビリについてのセッションもお送りしました。今年は、医療者や専門家の講義のみならず、3日目には全国6つの肺がん患者団体からなる、日本肺がん患者連絡会が患者力アップをテーマにしたプログラムの企画をしました。どのセッションも医療従事者も多く来場され、診察室ではなかなかじっくり話す時間を持たない患者と医療従事者がどうやってより良いコミュニケーションをとることができるか等、直接率直に意見交換しました。ますますチーム医療が重要となつていっているがん治療。今後もちょうとした患者が主体となつて、より良いがん医療について立場を超えて共に考えるセッションが学会に増えていくことが期待されます。



平成28年度 青森県がんピアサポーター研修会

2016年12月10日ラ・プラス青い森にて、平成28年度青森県がんピアサポーター研修会が開催されました。本講座は、青森県健康福祉部がん・生活習慣病対策課が、ピアサポーター養成、並びにピアサポーターの横のつながりを深めていくことを目的として開催しており、県内から30名以上のサポーターの皆さんが参加しました。CNJでは、第1回「ピアサポーター概論」・第3回「自身の体験を通して(ワークショップ)」の2講義を担当させていただきました。ロールプレイでは、県内各地の病院からがん相談員の方にファシリテーターとしてご協力いただき、経験談など交えながら、暖かい優しさに包まれた豊かな学びと気づきの時間を共有できました。修了者には、修了証書が送られ、これからの県内患者活動をけん引する頼もしいピアサポーターが誕生しました。

CNJでは、このような行政主催のピアサポーター養成研修のお手伝いしております。詳しくはお気軽にお問い合わせください。



左から CNJ 川上、受講生の中野渡昭子さん、CNJ 大友

Event Schedule 2017.01-2017.03

各イベント・お申し込みは <http://www.cancernet.jp/event>

1月

- 12(木) 東京** 小児がん・AYA 世代支援のレモネードスタンドBAR
時間/18:00 - 21:00 場所/キャンサーネットジャパン東京事務局オフィス
- 13(金) 東京** 第1回 希少がん Meet the Expert: 悪性黒色腫(メラノーマ)
時間/19:00 - 20:30 場所/国立がん研究センター中央病院 1F 希少がんセンター待合
- 15(日) 東京** 第3回東京医科歯科大学「がんを考える」市民公開講座 ～一緒に考え、選び、支えるがん治療～
時間/12:00 開場 17:00 閉場 (セミナー13:00-16:30 ブース展示12:00-17:00)
場所/東京医科歯科大学M&Dタワー 2階 鈴木章夫記念講堂
- 21(土) 大阪** 近畿がん診療推進ネットワーク主催【シンポジウム2017】～がん患者・家族に必要な支援とは～
時間/15:00 - 17:40(開場14:30)
場所/ブリーゼプラザ 小ホール
対象: がん医療に携わる(志す) 医療者・学生
- 27(金) 東京** 第13回ONCOLO Meets Cancer Experts :がん医療のウソ・ホント イカサマ医療とは?
時間/19:00 - 20:30 場所/秋葉原ジーニアスセミナールーム
- 28(土) 岐阜** もっと知ってほしい胃がんのこと in 岐阜
時間/13:00 - 16:00(開場12:30) 場所/じゅうろくプラザホール(岐阜市文化産業交流センター)



2月

- 4(土) 富山** ブルーリボンキャラバン もっと知ってほしい大腸がんのこと2017 in 富山
時間/13:30 開場 17:30 閉場 (セミナー14:00-17:00 ブース展示13:30-17:30)
場所/富山国際会議場 大手町フォーラム メインホール
- 10(金) 東京** 第2回希少がんMeet the Expert: GIST (消化管間質腫瘍)
時間/19:00 - 20:30 場所/国立がん研究センター中央病院 1F 希少がんセンター待合
- 24(金) 東京** 第14回ONCOLO Meets Cancer Experts: がんに対する免疫療法最前線
時間/19:00 - 20:30 場所/秋葉原ジーニアスセミナールーム
- 26(日) 名古屋** 高額化するがん治療費を考える ～新薬は患者の希望の光か、国を滅ぼすパンドラの箱か～
時間/13:00 - 16:00(開場12:30) 場所/ウィンクあいち大会議室902
対象: 医療従事者



3月

- 5(日) 東京** ブルーリボンキャラバン もっと知ってほしい大腸がんのこと2017 in 東京
時間/12:00 開場 17:00 閉場 (セミナー13:00 - 16:50 ブース展示12:00 - 17:00)
場所/東京医科歯科大学M&Dタワー 2階 鈴木章夫記念講堂
- 10(金) 東京** 第3回希少がんMeet the Expert: 肉腫(サルコーマ)～総論～
時間/19:00-20:30 場所/国立がん研究センター中央病院 1F 希少がんセンター待合
- 19(日) 新潟** 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2017 市民公開講座 がんと生きる時代 ～薬剤師が紡ぐがん医療～
時間/14:30 - 17:00 場所/朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター Snow Hall
- 24(金) 東京** 第15回ONCOLO Meets Cancer Experts: 長足の進歩を遂げる肺がん医療の最前線とは?
時間/19:00 - 20:30 場所/秋葉原ジーニアスセミナールーム
- 25(土) 東京** Over Cancer Together 第4回がんサバイバー・スピーキング・セミナー
時間/10:00 - 17:00、17:00 - 19:00懇親会(別途有料)
場所/東京マイステイズ 御茶ノ水カンファレンスセンター



リキッドバイオプシーとは？

がんの治療では、診断の確定や腫瘍の細胞型を同定するために、腫瘍の生検（バイオプシー）が不可欠です。従来の生検では内視鏡や針を使って腫瘍組織を採取しますが、リキッドバイオプシーでは血液などの体液サンプルを使います。

リキッドバイオプシーは、腫瘍からわずかに漏れ出して血液中に存在するがん細胞である「血中循環腫瘍細胞」や、がん由来のDNAである「血中循環腫瘍DNA」を捉える技術を活用したもので、近年、研究開発が盛んに行われています。

2016年の米国臨床腫瘍学会の年次総会では、進行した肺がん、乳がん、大腸がんを含む50の異なる腫瘍を持つ1万5000人以上の患者の血液検体を使ったリキッドバイオプシーで、従来の組織生検とほとんどの場合で同じ変異が同定できたと報告されました。

患者の健康状態や体内の腫瘍部位によって、外科的措置による従来の腫瘍生検が適切でない場合には、リキッド

バイオプシーが代替になりうるのが大規模研究で示されたのです。また米国食品医薬品局(FDA)は2016年6月1日、非小細胞がんにみられる上皮成長因子受容体(EGFR)遺伝子変異を検出する初のリキッドバイオプシー検査を承認しました。

さらにリキッドバイオプシーでは、組織生検では検出されなかった治療抵抗性に関連する変異も同定されました。遺伝子変異は時とともに変化するので、これらの変異はがんの進行に伴って、治療中にでてきた変異と考えられます。体に負担の少ない採血によるリキッドバイオプシーで、病状の進行や治療の効果、治療抵抗性の発生など定期的な観察ができるになれば、遺伝子情報を踏まえた最適治療を選ぶための新たなツールとなるでしょう。

情報提供／海外がん情報リファレンス

寄付のお願い

CNJは、2016年8月、認定NPO法人に認定されました。

認定NPO法人とは、より客観的な基準において高い公益性をもっていると判定されたNPO法人です。ご寄付いただいた個人様・法人様は税制優遇を受けられます。是非、2017年の活動を応援してください！

<http://www.cancernet.jp/donation>



あなたの思いを後世に伝え続けます
遺贈寄付をお考えの皆様へ

「遺贈」をご存知ですか？
個人が死亡した時に、遺言によって財産の全部または一部を法定相続人または法定相続人以外の人(自然人または法人)に無償で譲渡(贈与)することを「遺贈」といいます。
*また、死亡した個人の財産を相続人が寄付する「相続財産の寄付」があります。相続税が非課税になる、寄付控除が受けられるといった税制上の優遇措置も受けられます。
遺贈の寄付は大きな額しかできないと考えられがちですが、3万円や5万円でも大丈夫です。
CNJも遺贈の寄付の受け入れを開始いたしました。あなたの思いを後世へ引き継いでまいります。遺贈の寄付は難しくありませんが、いくつか注意すべき点がありますので、まずはお気軽に電話やメールでご相談ください。

*「いぞう寄付の窓口」 <https://izoukifu.jp/> より

スタッフ紹介

CNJでは、パブリックリレーション(PR)ピープルリレーションシップとして活動しております。認定NPOとなって初めての新年の目標は、2017年もたくさんの方々と出会い、時間を共有することです！みなさんが笑顔で過ごせる1年となりますように。



荻野 千晶 (おぎの ちあき)
認定NPO法人がんネットワークジャパン
東京事務局

ボランティア紹介

CNJボランティアの「顔」といえばこの方、浪瀬耕造さんです！CIN8期生でもある浪瀬さんは、受講をご縁にCNJボランティアとして関わってくださり、今ではCNJには欠かせない存在です。他にもピアサポーターとして活動されており、その穏やかなお人柄に老若男女問わず、ファンが多いです。そんな浪瀬さんには、CNJのセミナーで会えるかも!?



浪瀬 耕造さん

より良い薬を未来に届けるため、私たちは薬の開発を進めています。

治験（臨床試験）は開発中のお薬の安全性や効果を確認する重要なステップです。

また、現在の治療法では効果が不十分な方にとっては、治療の選択肢の一つとなるかもしれません。

ただいま、下記の治験にご参加いただける方を募集しています。

未来に薬を届けるため、現在のあなたの治療の一つとして、治験に是非ご協力ください。



治療歴がある方対象の治験

進行性肝細胞がん対象 第III相試験のご案内

血管新生阻害薬を使用する治験

治験情報の詳細はこちら

<https://oncolo.jp/ct/clinical-trials/ad0020>



治療が初めての方対象の治験

進行性肺がん対象 第III相試験のご案内

血管新生阻害薬を使用する治験

治験情報の詳細はこちら

<https://oncolo.jp/ct/clinical-trials/ad0019>



お問い合わせはこちら

掲載情報のお問い合わせ 平日(月~金) 10:00 ~ 18:30



0120-974-268

<https://oncolo.jp>

オンコロ

検索



イメージキャラクター
オンコロくん

全国各地の医療機関で実施しています。詳しい実施医療機関情報につきましてはお電話でお問い合わせください。